

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 総合心理学専攻学校教育学領域の適正な所属について、大学・教育学研究科とともに検討を開始し、2013年度までに一定の合意を得る。	→検討委員会の設置。検討の記録。	C	C	C		
2. 前期課程・後期課程ともに優秀な准教授からの任用を促進する。	→准教授の前期課程・後期課程への任用までの年限。准教授でそれぞれの課程に任用された教員の人数。	B	B	B		
3. 2010年度以降の昇任人事について、審査期間中(約1ヶ月)、全教員がいつでも業績を見ることができるよう制度化する。	→制度化の記録と実施実績	A	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	教育学部の完成年次が近づきつつあること、教育学研究科が新たに立ち上がることを勘案しながら、文学部・教育学部、文学研究科・教育学研究科、さらには教職教育センターの良き理解と情報交換のもとで進めなければならないが、大学を含め、3者ないしは4者間で将来構想を考える段階には至っていない。
★ 目標2	准教授の前期課程指導教員への任用は、まず大学院教員に任用された後、学内規程に基づき各領域へ照会したのち、文学研究科人事委員会での議を経て文学研究科委員会に上程する。同委員会では業績審査を経て、投票により前期課程指導教員への任用が決定される。前期課程指導教員から後期課程指導教員への任用も同様の形を取る。業績および教育力等を勘案して、前期課程指導教員着任後、最短3年での昇任がありうる。
目標3	年度中に進められた昇任人事に際しては、人事にかかっている教員から主要な著書・論文の提出を求め、これらを研究科委員長室に1か月にわたって公開した。業績一覧については、人事委員会で確認済みの書類を常に開示できるようにしている。
備考	目標2について、2011年度はこれに該当する教員はいなかった。